

## 1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	健康の森学園支援	指導者名	早川 千尋
実践場面 (教科名)	保健体育	単元・題材名	運動会の振り返りをしよう
学習目標・ ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会当日のことや事前に立てた目標を写真で振り返ることができる。</li> <li>・振り返ったことをまとめて発表することができる。</li> </ul>		
対象児童生徒の 実態	知的部門 高等部 3年		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で一人一台端末を扱うことのできる生徒と、教師や友達と一緒に検索ワードなどを確認しながら調べたり、見本を手掛かりにして文字を入力したりする生徒に分かれている。</li> <li>・読字・書字、短期記憶に困難さがあり、書字による振り返りを苦手とする生徒が複数いる。</li> <li>・発表に関しては、発語のない生徒、発音の不明瞭さや語彙の少なさから音声による発表に苦手意識のある生徒が在籍している。</li> </ul>		
活用の概要			
<p>(1) 授業の導入で、写真を用いて運動会の様子を振り返る。</p> <p>(2) 発表したい内容に合った写真を選び（運動会の写真と入力用の Keynote 様式を Airdrop 機能で各生徒端末に共有）、様式内の所定の位置に貼り付ける。</p>			
			
<p>(3) 感想や発表したい内容を文字入力したり、選択肢から選んでコピーし、貼り付けたりする。</p> <p>(4) 作成したスライドを Airplay 機能で投影し、発表を行う。</p>			
			
<p>(5) 作成したスライドをプリンターで印刷し、学習の記録とした。</p>			
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等	<p><b>【成果と活用のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を文字入力する際には、音声入力や 50 音キーボードによる入力など、各生徒に合った方法で文字入力ができるため、「正しい字形等に注意して書くこと」や「筆記用具を持って文字を書くこと」に係る負担が減り、振り返り活動に集中することができた。</li> <li>・印刷写真では大きさに制限があり、注目する箇所が分かりづらいため、一人一台端末のサイズ調節機能を活用した。ピンチ機能を活用して画像データの写真を拡大することで、注目したい箇所が明確になり、写真の細部まで見て場면을鮮明に思い出しながら感想を考えることができた。</li> <li>・発表場面においては、自分が作成したスライド内の写真を指差しながら、聞き手に伝わりやすい工夫することができた。</li> </ul> <p><b>【課題・改善点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発語のない生徒や、音声による発表に苦手意識のある生徒は、読み上げ機能や録音機能等を用いて発表するという方法も考えられる。</li> </ul>		